

令和5年度 宮崎県立日向ひまわり支援学校 学校関係者評価書

4 十分満足できる 3 ほぼ満足できる 2 やや物足りない 1 改善を要する

【総評】

評価項目	学校の自己評価・コメント	自己評価	関係者評価	学校関係評価者・コメント
(1) 学校経営 ① 教育方針や重点目標がわかりやすく具現化されている。 ② 学校、家庭、関係機関が連携して効果的な指導をしている。	「ありのままに自分らしく伸び伸びと」を合い言葉に、必要に応じて感染症対策をとりながら教育活動を計画・実施することにより、子供たちの学びを深め、教育目標の具現化に繋がる取組ができた。また、5月以降、徐々にコロナ禍以前と同じような行事や会議等が実施可能となり、家庭や関係機関と連携を深めることができた。	3	4	行事を参観して、教育方針が目に見える成果として現れているように感じた。保護者のアンケートの先生方への感謝の言葉の中にあるように、子供自身をそのまま認めてもらって、明るく安心して登校できる喜びを感じた。学校経営の中で、教育活動と感染症対策の両輪が効果的に図られていた。
(2) 教育課程 ① 児童生徒や保護者の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。 ② 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善をしている。	学級や学部で、一人一人の子供の実態を把握し、年3回行われる個別の面談を利用して保護者と共に個別の指導計画を作成している。その計画を基に個に応じた教育活動を実践することにより、子供たちのできることが少しずつ増えてきている。ICT活用の研究も3年目で深まり、授業だけでなく学校生活の中でも効果的な活用が見られ、さらに広がってきている。	4	4	授業の様子や学校行事を参観して、子供たちの生き生きとした姿を見ることができ、個別対応や学習効果を高める工夫を感じることができた。また、個別の指導計画と個に応じた教育実践により、子供たちが自信をもって学び続けていると感じた。ICT活用への取組は、とても進んでおり、素晴らしいと実感した。
(3) 教育活動 ① 児童生徒は学校に来るのを楽しみにしている。 ② 児童生徒の実態に即した課題に応じた指導を行っている。 ③ 児童生徒の将来の生活のための情報を保護者や児童生徒に提供できた。 ④ 個々の実態に応じた進路指導や進路相談が実施できた。	個別の指導計画や年間指導計画に基づき、手立て等を工夫しながら個に応じた指導を心掛けた結果、「児童生徒の各課題に応じた指導を行っている」という項目が、保護者のアンケートで高くなっている。進路だよりや学級懇談、支援会議等で、将来に関する情報提供が適切にでき、昨年度より評価が高くなっている。また、キャリア・パスポートの活用により、学校での子供の学びや成長について共通理解を図ることができ、キャリア教育の充実に繋がっている。	4	4	子供たちの課題分析が適切になされ、個に応じた指導計画がきちんとできている。そのことにより、保護者の教育活動に対する満足度が高いと感じることができた。また、授業を参観し、子供たちの姿や先生方の指導の工夫を見て、子供一人一人に寄り添った教育活動がされていると感じた。卒業後に関わる施設等の方々にも、学校の学びの様子を見てほしい、連携を図ってほしい。
(4) 教育環境 ① 施設や設備（遊具等）は、安全に管理・維持されている。 ② 災害や不審者対応等の緊急時の対応が整備されている。	安全点検を毎月1回実施することにより安全管理を行うと共に、修理・改善も計画的に行うことができている。その反面、施設の老朽化や土砂災害の危険が課題であり、学校安全連絡協議会において、様々な機関から助言をいただくことができた。災害に対する避難訓練や不審者対応訓練等を計画的に行い、危機管理意識を高めることができた。避難訓練の後には、大学生（防災ネットワークわけもん）による防災学習や日向市防災推進課による防災グッズ等の展示をし、内容等の工夫をすることができた。	3	3	安全点検を実施し、対応していることは良いが、施設の老朽化については課題であるので、県に予算を付けてほしい。避難訓練等の災害への対応に、大学生等を活用して工夫がなされていて良い。

(5) 情報提供	<p>① 保護者に学校や学部（学級）の情報を伝えることができています。</p> <p>② 地域・関係機関に学校の取組や必要な情報を伝えることができています。</p>	<p>子供たちの学校での様子は、月に1回発行している学校便り、日々の連絡帳や学級通信を活用して伝えることができた。地域や関係機関へは、ホームページやメディア（新聞、TV）等で情報発信を行ってきた。また、イオン日向店での作品展示を行い、広く学校の取組を伝えることができた。今後も工夫をして情報発信を行い、社会に開かれた学校を目指したい。</p>	4	4	<p>地域社会に学校の現状を公開し、良い情報発信をすることにより、学校や特別支援教育への理解を深めることができています。</p> <p>評議員を務めたことで、学校の取組を知ることができよい機会であった。</p> <p>TVで見かけたが、もっと多くの人に学校の取組を知って欲しいと感じた。</p>
(6) 研修研究	<p>① 職員研修の内容は適切であり、専門性や資質の向上を図ることができた。</p> <p>② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究を行うことができた。</p>	<p>オンライン等に加え、直接会場での参加による県内外の大会や研修会に参加し、特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができた。また、夏季休業中に講師を招聘し、対面によるICTに関する研修を実施し、先進的な取組の学びにつながり有意義な研修会となった。</p> <p>教育課題研究も昨年度に続き、ICTを活用した授業づくりに取り組み、学級での取組を実践例としてまとめることができた。また、研究公開を行うことにより、県内の多くの関係者の参加があり、県内のICTに関する資質向上に寄与することができた。</p>	4	4	<p>ICTを活用した教育支援が行われていて、研究公開により、県内の先生方の資質向上に寄与することができたので素晴らしいと感じた。</p> <p>また、今後も先進的な取組を期待している。</p> <p>研究公開のアンケートからも分かるように、とても有意義な研修がなされていると感じた。</p>
(7) 地域関係機関との連携	<p>① 学校間交流や居住地交流を実施して、障がいに対する理解・啓発を推進することができた。</p> <p>② 地域の小・中学校等を対象に特別支援教育に関する相談・情報提供を行うことができた。</p> <p>③ 福祉や医療関係機関等との連携を図ることができた。</p>	<p>学校間交流では、塩見小学校、日向中学校、日向工業高校との交流及び共同学習を計画的に実施し、啓発活動を行うことができた。また、居住地校交流も直接交流や間接交流を行い、回数を重ねることにより、地域に根ざした交流を深めることができた。</p> <p>特別支援教育のセンター校としては、チーフコーディネーターを中心に日向・東白杵地区の学校に教育相談や研修支援等を実施した。ICTの研究公開に日向・東白杵地区の先生方が参加し、本校の様子を知る機会となった。6月には、教育委員会や地域の小・中学校長を対象に学校意見交換会を行い、情報共有と啓発を行うことができた。</p>	3	4	<p>長年にわたる学校間交流や居住地校交流が計画的になされていて、地域に根ざした取組ができている。このような取組を続けていく中で、いつかきっと繋がって、共生社会へと実を結びたいと思った。</p> <p>福祉関係の施設との関わりも、今後、継続して行って欲しい。</p>
(8) 職場環境	<p>① 日常的に教職員間のコミュニケーションに努めることができた。</p> <p>② 学校・学部・校務部等の運営において共通理解と情報の共有ができた。</p> <p>③ 働き方改革をはじめ、充実した業務を遂行することができた。</p>	<p>新型コロナウイルスが5類に移行し、必要に応じて感染症対策をとりながら職員が一堂に集まる機会が増え、職員間でコミュニケーションを十分に取ることができていた。</p> <p>職員会議を対面で実施することができ、昨年度より協議・検討を行うことができ、共通理解を図ることができた。</p> <p>適材適所の職員配置により、充実した業務を行うことができ、職員の「やりがい」につながった。特に本年度は研究公開があり、準備等で多忙感を感じたところがある。行事や会議の精選等、組織としての対応や改善を模索している。</p>	3	3	<p>今年度は、職員が一堂に集まる機会が増え、コミュニケーションを十分に取ることができたことで、職場環境を活性化させることができ良かったと感じた。</p> <p>研究公開もあり、例年より多忙ではあったと思うが、成果もしっかり上がったと感じる。</p> <p>評議員会で、職員や学校の様子を見て、働きやすい職場だろうと想像しています。</p>